

## 数専ゼミの授業の実況中継

2024.5.26(日)

### 教室に入ります

教室は2階にあります。

階段をのぼって、引き戸を開けると、すぐ教室の中です。

廊下とか控え室などはありません。すぐ、勉強モードに入ります。

\*教室のレイアウトについては、[|トップページ|](#)→[|数専ゼミ入学案内書|](#)→[|教室の地図|](#)より、ご覧いただけます。

「こんにちわっ！」とあいさつをして…

自分名前の付いているファイルが置いてある席につきます。

といっても、生徒は3人か4人…

1人や2人のときもあります。

3人の組で、2人が曜日変更すると1人のクラスになってしまいます。

そうです。レッスンの曜日変更は自由です。

### 学習の準備です

先生からアルコールティッシュをもらい、机の上と椅子の背もたれを消毒します。

筆記用具、プリントのファイルを出します。

きょう学習すべき教材は、個人毎に机の上にセットしてあります。

数専ゼミの授業は、ピアノとかバイオリンの個人レッスンを思い浮かべていただければいいかと思えます。

“教則本”（解法の説明してあるプリント）を使って問題の解き方を自分で学びとり、その後についている問題を解いてみて、解けたら先生に提出し、添削してもらい、その結果を学び取って正しい問題の解き方を学びとります。

教則本を見てもわからないときは、先生に質問すれば、先生が1行1行ずつ解き方のプロセスを理解できるレベルの知識を補填しつつ、詳しく説明してくれます。

90分のレッスンです。

学習は、具体的には、次のプロセスで進みます。

### 学習計画書

新しい単元の学習に入るときには、教材プリントの一番上に「学習計画書」がついています。

これには、この単元で解けるようになるべき問題の解法タイプがリストアップしてあります。

これらは学習の目標です。体系的＝系統的に配列された問題群です。教科書や問題集よりも、は

るかに詳しく設定してあります。比べていただければ誰にもすぐわかります。  
サンプルは、こちらからご覧になれます。→ Link : | [Essay\\_495](#) |

## 0 復習

前回の学習の続きから入るときには…

教材ファイルの一番上には、前回までの学習結果を記録した「学習計画書」が載っています。  
その次に、前回解けなかった問題プリント(青色の文字で印刷された問題)がセットしてあり、その中の解くべき問題にはオレンジの○がついています。(オレンジの○がついていない問題は解く必要はありません。)

前回に解けなかった問題の再テストです。

家で勉強してきた人は、なんなく解きます。同じ問題ですから。

家で勉強してこない人もいます。

そういう人は、フツーは解けません。

1回解き方を理解しただけでは解けるようにはなりません。

ここをはき違えて、前回に解けたと勘違いしている人は、解けなかった問題を練習してきませんから、また、解けません。

だから、また、きょうも覚え直します。

これを繰り返している人は、勉強が先へ進みません。当然、成績はあがりません。

家で、解けなかった問題を解けるように練習すること…この学習だけが学力を高めます。

「解けない」を「解ける」に変えるのですから、当たり前のことです。

この当たり前ができない人は、塾で指導を受けていても、勉強している割に効果がでません。

## 1 ★解法の技術★を覚える

新しいテーマの学習に入ります。

例題(★解法の技術★)を自分で学習し、問題の解法を理解し、覚えます。

教えられたものはすぐに忘れます。

自分で学び取ったものは、自分のいままでに作り上げてきた知識の網の中にしっかりと固定されるので忘れないし、自在に使える知識になります。

問題の考え方や解き方の説明の部分で理解できないところは、先生に、

「ここ、よくわかりませんが…」とプリントを提出して、説明してもらいます。

解きっぱなしにしないのが、数専ゼミ式問題演習学習です。

例題と同じ問題、あるいは数値だけが違って、考え方はそっくりな問題で理解のチェックをします。

答案を書いたら、プリントを先生のテーブルの上に置きます。

先生は、それを添削し、結果を「学習記録」に記録します。

ふつうは、この段階ではまちがいません。

例題が解けるようになってから、先へ進みますが、添削には少し時間がかかりますので、その間は次のプリントの学習をします。

## 2 応用力を身につける

★理解のチェック★の問題が解けるようになったら、演習問題を解きます。ノーヒントですが、例題を理解していれば解ける問題です。

解いたら、やはりプリントを先生のテーブルの上に置きます。

解けないときは、白紙で提出します。すると、先生が解き方を教えてくれます。

先生は、添削し、記録をとり、答案を返してくれます。

間違っている部分には[青いライン](#)が引いてあります。そこを直し、プリントを再提出します。

自力で間違いが直せないときは、「わかりません」といって先生にプリントを提出します。

すぐに、先生が教えてくれます。

それでも、理解できないときは、もう一度「よく、わからないのですが…」という

先生は、さらに、基本部分から、具体例をあげながら丁寧に教えてくれます。

演習問題は1題しかない学習項目から8題くらいある学習項目もあります。その学習項目の応用範囲の幅によってまります。演習問題の多い学習項目ほど難しいといえます。

問題番号が進むにつれて難易度が少しずつ上がっていきます。

発展問題というのがありますが、これは入試レベルの学習です。やれる人だけやります。

## 学習の量について

演習問題をとばすこともあります。これまでの学習を見て、当然解けるはずだと判断される場合です。時間の無駄なので学習しません。

逆に、この問題を解くことは無理だと判断される場合もとばします。考える時間だけ無駄になるからです。

これらは、先生が、予めプリントをセットする段階で決めますが、学習の途中でプリントをセットがら抜くこともあります。

生徒は、自分用にセットされたプリントを、上から順に学習するだけです。

それだけで目標となる「解法の技術」を習得することができます。

飛ばした問題は、「学習計画書」の問題番号に斜線が引いてありますので、わかります。

飛ばした問題も解いてみたいという場合には、申し出ていただければ、プリントをあげます。

学習ノルマはありません。プリント何枚とか問題を何題など、その日に学習すべきノルマなどありません。できるところまでやります。

だから、学習に集中できない人は進みません。

1日に20枚、30枚のプリントを学習できる人もいれば、2～3枚しか学習できない人もです。家で復習しているかどうかで決まります。

解けなかった問題は、次回に再テストがあります。同じ問題です。

これは、家で解けるようになるまで練習してきます。

1つのテーマの学習が終了すると、次の新しいテーマ(学習目標)の学習に入ります。

以下、同じプロセスで学習を繰り返します。



以上がおおまかな90分の授業風景です。

## 学習の終了ルーチン

授業の終了時間になったら学習を終えます。

先生がとくに指示するわけではないので、時間になったら自分で勝手に学習を終了します。

勉強の区切りがわるいときは、少くらい時間を延長してもかまいません。

とくに先生からの指示はないので、自分で学習を終了します。

きょう学習したプリントは左上の口の中に、検印が押されています。これらは持ち帰ります。

まだ学習していないプリントは、そのまま机の上に置いておきます。

勉強道具を鞆にしまい、先生に「ありがとうございました。」と声をかけて教室を出ます。



## 自学自修システムの数専ゼミです。

### 数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: [suusen@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:suusen@seagreen.ocn.ne.jp)